

対談市町名	対談項目	各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
1 四日市市	対談項目1 内部・八王子線に対する支援について	<p>内部・八王子線の年間利用者は約360万人、その内の約半数の方が四日市市の市外の駅からの乗り継ぎ利用者であり、非常に広域的に利用されている極めて重要な交通インフラだと思っている。来年度から公有民営方式で運行が開始され、四日市市は第三種鉄道事業者となる。鉄道施設の更新等に係る費用については、国の補助スキームによる事業者負担分1/3を市が負担することとなるが、残る地方負担分1/3をぜひ県の方でご負担いただきたい。また、鉄道維持のための必要な経費についても、その1/3をぜひ県の方でご負担いただく仕組みの創設をお願いしたい。市の方も論理構成的なものは工夫させていただくので、前向きに応じていただくようによろしくをお願いしたい。</p>	<p>地方鉄道が非常に厳しい経営環境にある中で、県はこれまで運営に関するお金の赤字補填といった支援は行わずに、設備を最初に作る時の支援を行ってきたが、国に対して先般の秋、国から地方鉄道に対して支援を行うようなスキームを新たに創設してほしいという願いをしてきたところである。</p> <p>地方負担の1/3の部分については、これまで例えば三岐鉄道北勢線、養老鉄道、伊賀鉄道、いずれもその市の中に完結する路線については、県から上乗せ的に補助は行っておらず、国との協調補助の部分の補助はしっかり支援させていただくが、上乗せで補助するというのは、単に乗り継ぎが多いということだけにおいて新たな仕組みに踏みだすというのは難しい。もちろん県として、県立高校生も多いので、教育委員会に働きかけ、利用促進を図っていく汗はかいていきたいと思うが、内部・八王子線がなぜ特別なのかということについてまた議論させていただくような形でできればと思っているので、よろしくをお願いしたい。</p>

対談市町名	対談項目	各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
2 四日市市	対談項目2 三重国体開催に伴う施設整備の支援について	<p>本市においては、平成33年度の三重国体に向けて会場施設として、国体が終わった後のスポーツ振興にも寄与できる施設として、来年度から新体育館、テニスコート、サッカー場、野球場の整備を主に進めていく計画を持っている。県でも国体開催に向けての財源として、伊勢市にある県営総合競技場の整備について社会資本整備総合交付金の活用を検討されていると伺っている。この交付金は1開催県あたりの配分額に限度があるということなので、本市の新体育館の整備計画分も十分算入いただいた上で、県全体として交付金の有効活用を図っていただきたい。また、他の施設についても県からの特段の配慮をお願いしておきたい。</p> <p>社会資本整備総合交付金の活用についてはご配慮いただけるものと解釈したが、特に新しい体育館はかなりの巨額の経費を必要とする。支援の枠組みを作っていただいたのは本当にありがたいが、かなりギャップがあるので、特別のご配慮がいただければありがたい。</p>	<p>社会資本整備総合交付金については、6月と7月と11月に国に重点配分の要望を行ってきたところであり、これからも市町の分も含めての重点配分をしてもらえる形で国に対してお願いをしっかりとしていきたい。</p> <p>体育館やテニスコート等さまざまな新設部分について、特に体育館において本県は、全国の中でも体育館の少ない県であり、四日市市の場合は広域的な利用が見込まれる施設で整備していただくということであれば、適用となる新たな財政支援制度を先般発表させていただいたところであるので、ぜひそれをご活用いただいで整備していただければと思っている。</p>

対談市町名	対談項目	各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
3 四日市市	対談項目3 北勢バイパスの整備促進について	<p>平成30年度に北勢バイパスが国道477号バイパスに接続されれば、北勢地域の道路ネットワークが飛躍的に高まり、産業の活性化や生活環境の改善が大幅に前に進み、大きく地域に寄与し、その整備効果は絶大なものがあると確信している。さらに、防災の面からも南海トラフ巨大地震による津波の浸水被害を受ける恐れのある国道1号・23号に代わる緊急輸送道路の確保が急務であるということがあり、津波の浸水区域の外に位置する北勢バイパスは災害時の命の道として極めて重要な機能を果たすと思っている。そうした観点から北勢バイパスは、三重県北部の安全安心、地域の活性化ということにとって極めて重要であり、加えて南北の道路のダブルネットワーク化のためにも必要不可欠な道路だと思っている。ぜひ、来年度の国の予算編成に向けて県内の道路予算の配分についても十分にご配慮いただいた上で、国に対して本市と共に強く働きかけをしていただくようお願いをしておきたい。</p> <p>国交省の方で目標年度を決めていただくと、その後の進捗もスムーズにいくと思う。まずは平成30年度の国道477号バイパスまでの開通が実現するよう県からも要望していただきたい。</p>	<p>北勢バイパスの整備については、県としても北勢において最重点の国への働きかけの道路と認識している。東芝四日市工場から国道477号バイパスまでの区間については、新名神と同じ平成30年度に開通するということを国交省に明確に言ってもらうということが大事であり、併せて采女から中勢バイパスまでの未事業化区間についても実施時期や事業化するということを明確に言ってもらう、そういう働きかけが重要だと思っている。</p> <p>今回の衆議院議員選挙が経済の回復、地方創生というのをさらに前に進めていくということであるとするならば、県にとっても北勢地域にとっても地方創生、経済回復の原点となる、エンジンとなる道路であるというのは間違いないと思っているので、そういう観点からもさまざまな理論武装をして四日市市と共に国への働きかけを強めていきたいと思っているのでよろしく願いしたい。</p>

対談市町名	対談項目	各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
4 四日市市	対談項目4 県立工業高校における専攻科設置について	<p>本市に立地している県立四日市工業高校、県立四日市中央工業高校は、コンビナートをはじめ県内の、あるいは本市の産業を支える多くの企業に優秀な人材を輩出いただいている。</p> <p>現在、コンビナート企業においては世界的な産業構造の転換が進む中で、汎用品から付加価値の高い高度部材の製造へと製品の質的な転換が相当進んできており、その結果非常に高度な技術が集積していると認識している。それに伴い、企業が求める人材もこれまで以上にレベルが上がっており、さらに高度なレベルの人材の育成・輩出というものが必要になってきている。</p> <p>産業都市・工業都市である本市においても、市内に2つある工業高校に2年間の専攻科を設置し、本市のものづくり産業を支えるスペシャリスト、高度な職業人材の育成につなげていければと切に願っているが、この点に関しての知事の考えを伺いたい。</p>	<p>本県で専攻科を設置しているのは桑名高校の看護と水産高校であり、工業系の専攻科を設置しているのは全国で1都9県に10校ある。資格を取る以外に進んでいないのは何故かという、工業高校で専攻科を2年間行っても高卒扱いであり、短大卒扱いにもならないし、例えば大学の3年生から編入できるといったメリットが制度上なかった。ところが、本日それを文科省が2016年度から学校教育法を改正して、大学に編入できるような高校専攻科のメリットを作ろうではないかというのを検討しているというニュースが入ってきた。大学に編入できるのは大きなメリットなので、子どもたちや保護者の方、学校の皆さんを含めたニーズ調査をふまえながら、国の制度改正をふまえながら、ぜひ前向きにいろいろ検討していきたい。</p>

対談市町名	対談項目	各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
5 四日市市	対談項目5 2016年主要国首脳会議に伴う関係閣僚会合の誘致について	<p>県では、2016年に日本で開催される予定のサミットについて、「自然」と「食」のテーマに基づいて、環境、農林水産・食糧関連、観光、防災、外務等に関連した閣僚会合を伊勢志摩地域へ誘致する意向だと伺っている。</p> <p>本市においては、四日市公害の歴史と教訓を風化させることなく、公害が発生した後、市民の皆さん、企業、行政が一体となって取り組んできた環境改善の取組、産業の発展と環境改善を両立してきたまちづくりの歩み等、そうした情報を総合的に発信する拠点として「四日市公害と環境未来館」を来年の3月にオープンする予定である。そこで、環境に関連した閣僚会合の誘致に取り組んでいただき、その視察先として「四日市公害と環境未来館」をぜひ活用していただきたい。</p>	<p>2016年にサミットが日本で開催され、それと共に関係閣僚会合が日本各地で行われることになっている。本県としては、2016年に伊勢志摩国立公園が70周年を迎えるのと、国際地学オリンピックを日本で初めて本県で開催することもあり、また本県の豊富な「食」というのもあるので、「自然」と「食」をキーワードにそれに関係する閣僚会合を誘致したいということで動き始めている。今お話しいただいた「四日市公害と環境未来館」については、関係閣僚会合の誘致が決まったら、視察等について国の意向をふまえながら提案していきたい。それが仮に無理でも、日本とインドのエネルギー対話とか日中韓の環境大臣会合といったさまざまな関係閣僚会合の誘致等を通じて、「四日市公害と環境未来館」に行っていただくとか、認知してもらうような部分について、しっかり協力させていただきたいと思っているのでよろしく願いしたい。</p>

対談市町名	対談項目	各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
6 四日市市	対談項目6 海外都市との経済交流について	<p>本市は今、アメリカのロングビーチ市と姉妹都市提携、中国の天津市と友好都市提携を結んでいる。</p> <p>本市には、オンリーワン、ナンバーワンの技術を持った非常に優秀な中小企業が数多く存在している。そうした中小企業や、それに匹敵するような高度な技術を持った中小企業がさらに競争力を高めていくために、海外での市場開拓、海外展開に対して支援する目的を持って、今後東南アジア諸国との経済に限定した戦略的姉妹都市提携に向けて準備を始めたところである。県と本市の提携する先は違っても、産業都市である本市と県が海外戦略を共有することによって、お互いに相乗効果を高められるのではないかと思っている。ぜひ、県の持っている経済交流に関するノウハウや情報を提供していただきたいということと、本市がこれから進めていく海外との経済交流・提携についてぜひご支援・ご協力をお願いしたい。</p>	<p>東南アジア諸国や新興国においては、四日市市に拠点を置く企業で向こうに進出して頑張っていたところもたくさんあるので、そういうのをきっかけにしながら、四日市市が戦略的な経済交流をしていただくことに県としてもサポートしていきたいと思っている。</p> <p>ロングビーチ市も石油精製や観光、港湾、県が進めている航空機関係の集積もあるので、四日市市が経済交流を深めていただくことを県が後押しすることも、県が産業政策として航空機産業やコンビナートの再生を考えている部分について非常に助かる部分があるのでぜひ積極的に貢献していきたい。また、来年35周年を迎える天津市との交流についても、天津市という中国三番目の大きい都市との交流なので、県としてもぜひバックアップしていきたいと思っている。</p>